

C-28 衣服サイズに関する研究

年次の推移による女子学生の体型変化について

京都女大家政 〇島山絹江 岡田節子

目的 本研究は衣服サイズに関する研究の一環として京都女子大学学生を対象に身体計測を行ない、女子学生の体型を把握すると共に、この資料と10年を隔てた資料と比較し、年次の推移による体型の変化について検討し考察を試みた。

方法 被験者は1977年6～7月に計測した19才～22才の京都女子大学学生114名と、1967年6月～9月に計測した同大学20才の学生96名である。研究項目は、女子学生の体型を考察するために必要な項目と衣服サイズに関係の深い項目を加え36項目とした。

結果 1)1977年の成績による平均的な女子学生の体格は、体重51.41kg、身長156.42cm、胸囲82.12cm、胴囲62.45cm、腰囲90.37cm、背肩幅38.95cm、背たワ37.95cm、袖たワ51.69cmであった。2)10年を隔てた両年度の成績を比較すると、1977年の成績は全般的に増加の傾向を示しており体格は向上している。3)高径、長径項目では、頸椎高、肩峰高、乳頭高、後胸高、股の高さ、背たワ、袖たワ、上肢長が1%水準で1977年に優位な有意差が認められた。身長126cm、体重28.9kgと増加を示したが有意差は認められなかった。4)周径項目では、胸囲、胴囲、腰囲、上腕最大囲、大腿最大囲が増加し、幅径では胸部横径、矢状径では、胸部包囲矢状径、胴部矢状径に1977年が優位な有意差が認められた。5)モリソンの関係偏差折線によって両年度間の体型を総合的に比較すると、1977年はやや大柄であり、頭身指数もよくなり、股下が高く、腕長で胴のくびれの少ない体型に移行してきているようである。